

速報

-20°C におけるマスターアナモフィック

マスターアナモフィックでクワブスのプロモーションビデオを撮影

撮影監督のスティーブ・アニス氏 (Steve Annis) は、アリ/ツァイスマスターアナモフィックレンズを北極圏に持参して、クワブスのミュージックビデオ『PERFECT RUIN』を撮影しました。(ビデオは <https://vimeo.com/118691882> でご覧いただけます)

撮影監督スティーブ・アニス氏のインタビュー

「マスターアナモフィックの中でも、特に MA100 と MA135 のスピードは際立っています。」

ロンドンを拠点に活躍するニューソウルシンガー、クワブス (Kwabs) のミュージックビデオ『PERFECT RUIN』の撮影に当たって、撮影監督のスティーブ・アニス氏は、アレクサに MA35、MA50、MA100 の 3 種類のアリ/ツァイスマスターアナモフィックレンズを使用しました。撮影現場のスウェーデンのルレオ村は北極圏の内側に位置するため、それらのレンズはもとより撮影クルーも厳寒の環境で使用テストを受けました。

監督はなぜマスターアナモフィック (MA) を選ばれたのですか？

私は初めてマスターアナモフィックを使用した時に、それらのレンズにとても感動しました。使えば使うほど絶妙な明るさやコントラストを出せることが分かったのです。スウェーデンでの撮影には、それらのレンズを使うしかないと思いました。なにしろ酷寒の地なので素早い撮影が要求されるうえに、平坦な地平線を背景とした広角映像が何枚も必要でした。MA35 で撮影したスチール映像を人々に見せると信じられないという顔をします。他のアナモフィックレンズで撮影すると、地平線に歪曲収差が生じるのですが、そのような画像劣化が一切ないのであります。

プロモーションビデオを見ると撮影は明け方と夕暮れ時のみだったようですが本当ですか？

そのように見える理由は、スウェーデンの撮影現場では、太陽光が 10 am から 4 pm の間しか姿を見せず真昼でも太陽が空の低い位置にあるからです。しかしライトを幾分調整して強調したため美しい画質を引き出すことができました。英国では真夏でもマジックアワーと呼ばれる芸術的写真の撮れる日没後の時間帯は 30 分しかありませんが、かの地では 90 分もあるのです。地球の中でも撮影にとってありがたい地域だと思います。

絞りを開放して撮影されましたか？

はい、ほとんどの撮影の絞りを開放して感度 2,000 ASA で行いました。マスターアナモフィックの中でも、特に MA100 と MA135 のスピードは際立っています。他のほとんどのアナモフィック 100 mm レンズは開放絞り値が T3 ですが、絞り値の小さいマスターアナモフィックは T1.9 と、半分のスピードでの撮影が可能であり信じられないほどです。今回のような撮影環境では、これは大きなメリットでした。



マスターアナモフィックにはフレアが欠けていると言われていますが、どのようにお考えですか？

『PERFECT RUIN』は、すべて自然光の中で撮影しました。もし容易にフレアを生じるレンズを使用していたら北極圏の光源の下では何も見えなくなっていたことでしょう。おそらく、すべての映像がフレアの数珠つなぎになっていたと思います。アナモフィックレンズの中でも、マスターアナモフィックには独特の特徴があり、フレアも歪みも引き起こさないということを、私は楽しいと捉えています。ユニークなので良いことだと思います。

焦点距離の違いは、どのように利用されましたか？

私は焦点距離をあまり変えない方を好みます。そうすれば撮影現場の意思決定をスピードアップできます。プロモーションビデオの大半は MA35 で撮影しました。50 mm を使ったのは自然の遠近感を出すためにクワプスの顔を近距離で撮影したカットくらいです。100 mm を使ったのは、超クローズアップがほしかった 1、2 回だけです。

レンズの構造については、どのようにお考えですか？

様々な焦点距離に対応できることと、アイリス（絞り）やフォーカスギアを調整せずともレンズを交換できることが、とても便利だと思います。さらに最新の工学技術を取り入れている点も重要です。-20°C の過酷な環境で他のアナモフィックレンズを使っていたら途中で使用できなくなったかも知れません。撮影現場は厳寒の地でしたが、それらのレンズは何ら不調を起こすことなく一日中働いてくれました。今回の撮影には、それらのレンズが唯一使えるレンズだったと思います。

撮影クルーの皆さんは、現地の状況にどのように対処されましたか？

私はドリームチームと仕事ができ本当に幸せでした。スウェーデンのステディカム操作者は、ネスター・サラザールという人だったのですが、彼は仕事だけでなく態度や情熱の面でも、素晴らしい人でした。同じことが、レンズの焦点を合わせる撮影助手や、機材の設置を担うグリップチームの人々についても言えます。クルー全員が生き生きと撮影をバックアップしてくれましたので、大変感謝しています。あのような過酷な環境での撮影には、いつもそれらの環境で撮影している現地クルーの存在は欠かせません。

ARRIについて：

Arnold & Richter Cine Technik (ARRI) は、1917年に設立された世界最大の映画撮影用カメラ、デジタルインターミディエイト (DI) 機器、照明機器の製造・販売会社で、ドイツのミュンヘンに本社を置いています。ARRIグループは子会社と提携企業のグローバルネットワークで構成されており、ARRI Rentalを通じた世界規模のカメラ、グリップ、照明機器のレンタル、ARRI System Groupを通じた照明のターンキーソリューション、ARRI Film & TVを通じたフィルム現像、ポストプロダクション、VFXサービス、ARRI Worldsalesを通じた映画配給など、映画産業のあらゆる側面を網羅しています。製造面では、カメラシステムのALEXA、ドキュメンタリースタイルカメラのAMIRA、マスターアナモフィックレンズ、LシリーズのLEDライト、MシリーズのHMIライト、プロ用カメラ付属品、アーカイブ技術のARRISCANなどの製品を手掛けています。映画芸術科学アカデミーは、ARRIのエンジニアおよびその技術的功績を称え、18回も



科学技術賞に選定しています。

所在地、並びに詳細情報はARRIのウェブサイト (www.arri.com) をご覧ください。

本件に対するお問い合わせは以下までお願い致します。

株式会社ナックイメージテクノロジー

〒107-0061 東京都港区北青山 2-11-3

映像制作営業部 Tel : 03-3796-7901 Fax : 03-3796-7905

E-mail : seisaku@camnac.co.jp